

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

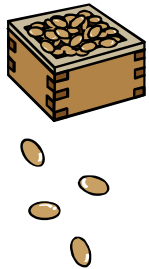
ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku\_soumu@rinya.maff.go.jp

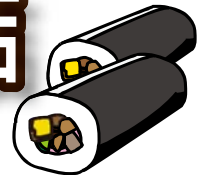


四国山の日

No.1091 2011 年 2 月号



## 「郷土の森」協定締結



高知県長岡郡本山町と四国森林管理局が嶺北森林管理署管内の汗見川上流に位置する竜王山国有林外（75畝）を「郷土の森」とする協定を締結しました。

【詳細は2頁以降へ】



左：本山町 今西町長


右：四国森林管理局 宮原局長



INTERNATIONAL YEAR  
OF FORESTS - 2011

2011年は国際森林年です

**「郷土の森」協定締結！**  
 「高知県・本山町 竜王山」  
**郷土の森」協定調印**  
 〈計画課・嶺北森林管理署〉



一二月二二日、嶺北森林管理署管内にある竜王山国有林外（汗見川上流に位置する標高一三〇〇〜一五〇〇区域）において、本山町と「郷土の森」を設定するため、協定調印式を行いました。

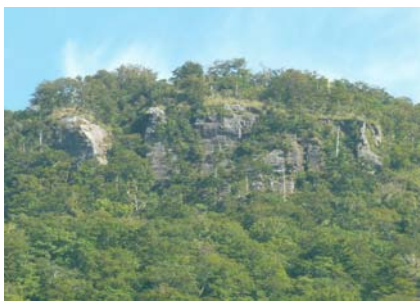
現在、四国森林管理局管内には、四箇所の「郷土の森」が設定されていますが、今回の設定は、七五杉と管内最大規模となります。



竜王山のアケボノツツジ

今回設定する「郷土の森」

は、樹齢二百年のブナやトチノキ等の広葉樹、シヤクナゲやアケボノツツジ等の花木類、希少植物も多数生育しており、また、地質的にも全国的に希少な「紅（こう）れん石」の大露頭が見られるなど、森林環境教育の場としては興味深いエリアです。



郷土の森の紅簾石(こうれんせき)の大露頭

調印式は、本山町からは今西町長始め副町長など四名、四国森林管理局からは宮原局長、嶺北森林管理署長等六名が出席して行われました。

調印にあたり、宮原局長より、「地域での保存活動の

盛り上がりにより、貴重な天然林などを後世につなげる活動を実施することは大変意義深いものがあります。是非とも地域の象徴としての取組をお願いします」と挨拶があった後、今西本山町長から、「本山町は、今年（平成二二年）は町制百周年の記念の年で、この契機に協定の調印を迎えたことは大変な喜びであり、当局のご理解とご協力に感謝します。

この「郷土の森」の自然美豊かな自然環境を地域住民等と一体となって守りながら、地域の活性化と振興のための取組を行い、後世につながる地域づくりを目指します」との挨拶がありました。

調印式は和やかに進められ、「郷土の森」設定の協定書に調印した後、お互いが協力をし合うことの堅い握手を交わし、式は無事終了


しました。

平成二三年は、「国際森林年」の記念の年でもあり、本山町では、この自然資源を活かした情報発信も行うこととしており、本山町での今後の取組が期待されます。



握手をする今西本山町長(左)と宮原局長

**森林整備推進協定を締結**  
 森林整備の円滑化の一層の推進  
 〈香川森林管理事務所〉



平成二三年一月一日、香川森林管理事務所において、独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センタ

「徳島水源林整備事務所の川村所長と香川森林管理事務所の西村所長が、「東かがわ市・阿波市地域の森林整備推進に関する協定書」に署名しました。

同協定は、平成二一年七月に徳島水源林整備事務所と締結した、香川県まんのう町と徳島県三好市における「勝浦・太刀野地域の森林整備推進に関する協定」に続き二件目となります。

今回も、隣接する香川県東かがわ市と徳島県阿波市において、共同施業団地を設定し、間伐の積極的な実施による長伐期施業の推進、作業路網の整備等に、両者が一体となって取り組んでいくことを盛り込んでいきます。

協定面積については、それぞれ二三〇畝（清水国有林）、六三畝（水源林造成事業地）の合計二九三畝です。今後においても、相互の

森林整備の円滑化を推進していくため、他の隣接箇所についても協定締結に向け取り組んでいくこととしています。



左：西村所長、右：川村所長

**四国森林・林業  
研究発表会を開催**  
〈指導普及課〉

一月二四日・二五日、高知会館(高知市)において、「平成二二年度四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

先ず、宮原局長から、「今回発表される課題は、国民のニーズに応えた多様な森林づくりやニホン

ジカ被害防止対策、森林環境教育の取組など幅広い内容であります。発表される方々が取り組んでいる課題が、これからの森林づくりなどに反映されることを期待します。」と挨拶がありました。

五八回目を迎えた今年の研究発表会は、局署等のほか、教育機関、各研究機関等から二三課題(特別発表を含む)が発表されました。特に、ニホンジカによる

る食害に関する発表が四課題あり、早急に取り組むべき課題であることを再認識させられました。また、四万十市立口屋内小学校、美馬市立江原中学校、高知県立四万十高等学校及び高知県立高知工業高等学校から、学習活動の一環として取り組んでいる内容について発表があり、会場から多くの拍手が送られました。



ふるさと口屋内の自然を大切に(口屋内小学校)

一日目には、松山東雲女子大学名誉教授の石川和男氏による「タカ類の保全と生物多様性」タカは健全な生態系のシンボル」と題した特別講演を行いました。



松山東雲女子大  
石川名誉教授(特別講演)

石川氏からは「生物多様性の保全等を図ることを目的として、生物多様性条約(一九九二年国連環境開発会議(地球サミット)に先立ち採択)が締結され、その後の国内の法律等の整備や

昨年策定された「生物多様性国家戦略二〇一〇」、同年名古屋市で開催された「生物多様性条約第一〇回締約国会議」の目的や意義について話されました。

また、クマタカ、オオタカ、サンバ、ハチクマ、ハヤブサ等タカ類の生態、見分け方や四国での生息状況について説明されました。

特に、クマタカの営巣木にはアカマツの大径木がよく利用されること、狩りは林中で待ち伏せ型であることなどを貴重な写真を交えて説明されるとともに、これらタカ類の生態系における重要さや保護することの意義、生息環境について森林地域での保全対策として、営巣中心域の望ましい条件や林業上の配慮等についての講演をいただきました。

二日間の発表を終え、独立行政法人森林総合研究所の今富所長を審査委員長と

する審査委員による審査の結果、四国森林管理局長賞として八課題(最優秀賞一課題、優秀賞三課題、奨励賞四課題)、(社)日本森林技術協会理事長賞、また、(財)日本森林林業振興会会長賞としてそれぞれ一課題が選出され、各受賞者に表彰状と記念品が授与されました。

最優秀賞に輝いた安芸森林管理署の発表は、森林教室の開催に向けて、配布資料の工夫、現地での対応、引率・安全体制についての取組が高く評価されました。なお、今回の発表課題と審査結果は次頁のとおりです。



最優秀賞を受賞した  
安芸森林管理署職員三名



四国森林林業研究発表会課題及び審査結果

発表順	発表課題	発表者		審査結果
		所属	氏名	
1	一ノ谷山80林班「遊々の森」 (いなむら体験の森)の自然再生 への取組について	嶺北森林管理署 業務課係員 瀬戸森林事務所 森林官 業務課長	加藤万実子 原崎 誠 岡部 光明	
2	野根山街道における森林教室の 取組について	安芸森林管理署 業務第一課 係員 総務課 係員 野友森林事務所 係員	田中 梓 益田 舞 平松龍之典	四国森林管理局 局長賞 (最優秀賞)
3	IKONOS衛星画像の導入 による業務の効率化について	(独)森林総合研究所 森林農地整備 センター 徳島水源林整備事務所 造林係主任 造林係主任	祐谷 有恒 木學 良広	四国森林管理局 局長賞 (優秀賞)
4	ふるさと口屋内の自然を大切に ～エコクラブ交流をとおして～	四万十市立口屋内小学校 5年生 6年生	松田 侑也 秋元 友幸 渡辺 大地	四国森林管理局 局長賞 (奨励賞)
5	ものづくりから始まるわたしたち の未来	徳島県美馬市立江原中学校 教諭	岩山 敦志	四国森林管理局 局長賞 (奨励賞)
6	シカ食害防止と生態系に配慮した 治山工事の一考察	四国森林管理局 治山課 国有林治山係長	丸田 泰史	四国森林管理局 局長賞 (優秀賞)
7	低コスト育林のためのポット大 苗育苗技術の開発 ※特別発表	徳島県立農林水産総合技術支援セン ター 森林林業研究所 森林生産環境担当 主任研究員	金磯 牧夫	
8	竹林の管理と竹資源の利用 ※特別発表	愛媛県農林水産研究所 林業研究センター 主任研究員	坪田 幸徳	
9	高知県における山岳遭難救助活 動と登山道について ※特別発表	高知県警察地域課 山岳遭難救助指導員	佃 廣利	
10	山村居住の課題と今後の支援 ※特別発表	(独)森林総合研究所 四国支所 主任研究員	垂水 亜紀	
11	ニホンジカの食害による被害跡 地の自然再生に向けて	四万十川森林環境保全 ふれあいセンター 自然再生指導官	川口 智	